

生田緑地およびその近隣でのタカ目の記録

川島逸郎*・永井一雄*・高梨沙織*

Some records of the Order Accipitriformes (Class Aves) in the Ikuta Ryokuchi Park and its adjacent areas, Kawasaki City

Itsuro Kawashima*, Kazuo Nagai* and Saori Takanashi*

川崎市域は、都市化が極度に進行しているため、残された樹林あるいは原野といった環境はごくわずかにすぎず、タカ目鳥類の生息には不利な条件にあると考えられ、その記録も豊富とはいえない。そうした中、この目の鳥類は、まとまった緑地あるいは草地などの自然環境が今も残る、生田緑地や多摩川を中心に観察される例が多いものと考えられる。筆者らは、これらの鳥類について特に注目してきたわけではないが、2015-2016年度にかけて、生田緑地およびその近隣において、手元に控えてあった目撃例のうち、主な記録を取り上げて報告しておく。

学名および種の配列は、日本鳥学会 (編) (2012) に従った。本報告における記録地はすべて多摩区に含まれるため、区名までを省略した。観察日は8桁の数字で表したが、不明の場合は*で表記した。

記録

鳥類 Class Aves

タカ目 Order Accipitriformes

ミサゴ科 Family Pandionidae

ミサゴ *Pandion haliaetus* (Linnaeus, 1758)

1 ex., 柘形7丁目 (生田緑地・中央広場上空), 20150401, 川島目撃
生田緑地中央広場上空の、かなり高い位置を帆翔している個体を発見した。移動の途上であつたらしく、その場で旋回することはなく飛び去った。その魚食性から、一般的には、海岸付近あるいは大河川に生息し、近年は県内でも記録が増え、繁殖期でも観察されるようになってきている (日本野鳥の会神奈川支部 (編), 2013) が、川崎市の内陸部では珍しい例ではないかと考えられる。

タカ科 Family Accipiteridae

トビ *Milvus migrans* (Boddaert, 1783)

1 ex., 柘形7丁目 (生田緑地・中央広場北側上空), 20151101, 川島目撃; 1 ex., 柘形7丁目 (生田緑地・科学館前), 20161118, 永井目撃; 1 ex., 柘形7丁目 (生田緑地・伝統工芸館～奥の池間), 20161213, 川島・永井・高梨目撃; 1 ex., 東生田1丁目・登戸間 (稲生橋交差点付近), 20161220, 高梨目撃

県内では、海岸に面した湘南や三浦半島などの沿岸域を中心に多数が生息する。しかし、川崎市域では個体数は少なく、ごく少数が多摩川流域で散見される程度で、生田緑地およびその周辺では、むしろ稀な種である。

ノスリ *Buteo buteo* (Linnaeus, 1758)

1 ex., 柘形7丁目 (生田緑地・東口付近上空), 20161111, 川島目撃

原野や開けた耕作地といった環境を好むことから、多摩川河川敷などでは、とりわけ冬期には比較的多くみられるが、上記のような環境の少ない生田緑地では多いものではない。上の例は、曇天の13時45分頃、帆翔しながら緑地外へ離脱してゆく個体を目撃した。

ハイタカ *Accipiter nisus* (Linnaeus, 1758)

1 ex., 東生田1丁目・登戸間 (稲生橋交差点付近), 20150328, 川島目撃

大型に見えたことから、♀であつた可能性がある。午後17時45分頃、ツバメ *Hirundo rustica* やハクセキレイ *Motacilla alba* が盛んに警戒音を発しつつ飛び交う中、ニヶ領用水の基底のコンクリート護岸から飛び立ち、上昇しながら西方向へ飛び去った。これらの小型鳥類の捕食を試み、逆にモビングを受けていたものようである。色調や斑紋などから、若い個体とみなされた。県内では、冬鳥または留鳥として森林に生息するが少ないとされる (日本野鳥の会神奈川支部 (編), 2013)。

なお、上記の例の他にも、本種あるいはツミ *A. gularis* (Temminck & Schlegel, 1844) と考えられる個体を3例以上目撃しているが、いずれも飛翔高度が高い中か、遠距離での目視で、確実な同定には至らなかった。

オオタカ *Accipiter gentilis* (Linnaeus, 1758)

1 ex., 柘形7丁目 (生田緑地・中央広場), 201603**, 川島目撃; 1 ex., 柘形7丁目 (生田緑地・中央広場付近), 201604**, 高梨目撃

3月の観察例は、午前9時30分頃に、中央広場西端の上空を南の方角へ飛び去る個体を目撃したものである。大型に見えた点では♀の可能性が考えられ、腹面は純白に近い色調であつた点からは、成鳥と判断される。4月の例は、正午12時に近い頃、中央広場付近でドバト *Columba livia* を捕捉したまま、低く飛ぶ個体を目撃した。同時に、カラス類のモビングを受けていたものか、それらの数羽に追われつつある状況であつた。背面の色調に加え、白みの強い腹面が目立った点から、成鳥あるいはそれに近い年齢の個体であつたと考えられる。

引用文献

日本鳥学会 (編), 2012. 日本鳥類目録 改訂第7版 xx.+438 pp., 日本鳥学会, 兵庫

日本野鳥の会神奈川支部 (編), 2013. 神奈川の鳥 2006-10 -神奈川県鳥類目録-. 361 pp., 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜

*川崎市青少年科学館 (かわさき^{そら}宙と緑の科学館)
Kawasaki Municipal Science Museum